

伊豆諸島周辺海域で採集された トゲナシチビキ (スズキ目 : ハチビキ科)

萩原清司*・岡部 久**

Emmelichthys karnellai (Perciformes:
Emmelichthyidae) collected from the
near water of the Izu Islands, Japan

HAGIWARA Kiyoshi* and OKABE Kyu**

キーワード: トゲナシチビキ, ハチビキ科, 伊豆諸島, 分布

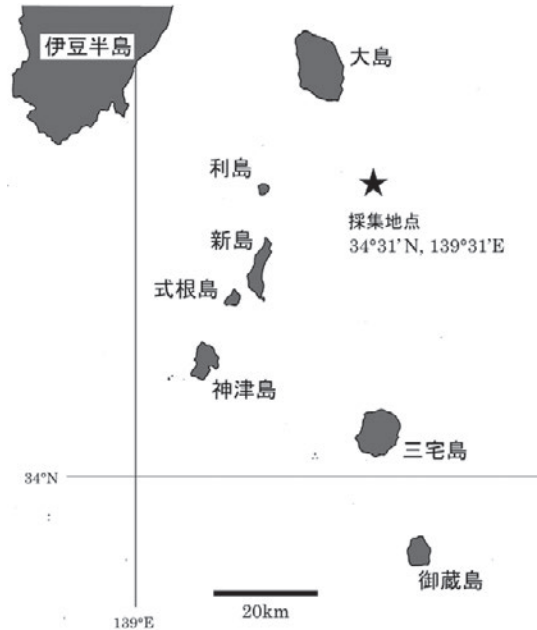
Keywords: *Emmelichthys karnellai*, Emmelichthyidae,
Izu Islands, distribution

トゲナシチビキ *Emmelichthys karnellai* Heemstra & Randallは、1973年にハワイ諸島ハワイ島のホナウナウ沖水深275mから得られた体長220mmの個体を模式標本とするスズキ目ハチビキ科ロウソクチビキ属の魚類で、ハワイ島、イースター島、グアム島など中央および西部太平洋の熱帯域に分布することが知られる (Heemstra and Randall, 1977; Carpenter, 1999)。

日本産のロウソクチビキ属魚類としては、青森県沖と山陰沖の日本海および関東地方以南の海山の周辺海域に分布するロウソクチビキ *E. strusakeri* Heemstra & Randallと本種の2種が知られている (波戸岡, 2000)。本種はYoshino and Kon (2000) によって琉球列島周辺の水深100m前後の海域から漁獲され那覇市内の魚市場に水揚げされた日本初記録の個体に基づき、和名トゲナシチビキを与えられたが、その後日本周辺海域から標本に基づく報告はない。

この度、著者の一人である岡部によって伊豆半島周辺海域 (第1図) から本種と同定される標本2個体が得られたので、採集個体のデータと採集状況について報告する。本報告の計測値は10%ホルマリン水溶液で約1ヶ月間固定の後、70%エタノール水溶液で保存した資料 (横須賀市博物館魚類資料: YCM-P) による。

なお本報告にあたり、文献を提供いただいた大阪市



第1図 採集地点。

自然史博物館の波戸岡清峰氏に感謝の意を表す。

供試標本

YCM-P44458-1, 44458-2, 2個体, 標準体長246.2-255.8mm, 採集日20100508, 伊豆諸島・大室出し (北緯34° 31', 東経134° 31': 第1図) 水深約90m, 釣獲。

記載

体は紡錘形; 口は小さく前方に突出させられる; 主上顎骨は涙骨に覆われず, 後半部は鱗を被る; 側線は発達し, 後端は尾鰭基部に達する; 背鰭は完全に2基に分かれ, 背鰭間に遊離した棘はない; 第2背鰭および臀鰭基部は鱗を被る。

以下に形質計数・計測値を示す。背鰭12棘10-11軟条; 臀鰭3棘9軟条; 胸鰭20軟条; 腹鰭1棘5軟条; 側線鱗数74-78; 背鰭始部下方の横列鱗数9+18-19=27-28; 臀鰭始部上方の横列鱗数7-8+17=24-25; 脊椎骨数10+14=25。体長に対する比率(%) : 全長118.4-115.7; 頭長25.1-25.7; 体高22.7-23.4; 背鰭前方長36.2-37.2; 肛門前方長62.8-646; 胸鰭長

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台 95

** 神奈川県水産技術センター

原稿受付 2011 年 10 月 1 日 横須賀市博物館業績 651 号

11.9-12.2；第1背鰭基底長19.8-24.5；第2背鰭基底長13.2-13.8；臀鰭基底長11.7-12.1；背鰭最長棘(背鰭第3棘)長13.5-13.8；臀鰭最長棘(臀鰭第3棘)長4.3-4.7。頭長に対する比率(%), 吻長28.6-29.2；眼径27.5-28.1；両眼間隔33.3-36.5；上顎長37.8-38.1。

生鮮時(採集後24時間以内の冷蔵標本)の体色は、吻および体側中央線より上方は鮮やかな赤色、体側中央線から腹中線にかけては銀桃色。背鰭鰭膜は半透明。臀鰭は白色。腹鰭は白色で基部付近の鰭膜のみ赤味を帯びる。尾鰭は赤色。体に目立った斑紋はない(第2図に示された尾柄部の上下1対の黒色斑は収集時の損傷によるうっ血に起因する)。10%ホルマリン固定後の標本では、体側中央線より上方に黒色素が分布し、この色素は側線付近より上方および吻の背面から背鰭前方で密となる。各鰭の鰭条および鰭膜は透明または白色。

考 察

供試個体は、体が紡錘形であること、口が小さく口裂は眼の前縁下方を超えないこと、口は前方に突出可能なこと、主上顎骨は涙骨に覆われず鱗を被ること、背鰭は明らかに2基に分離することなどロウソクチビキ属の特徴を備え、第1・第2背鰭間には遊離棘がない特徴(Heemstra and Randall, 1977; Carpenter, 1999; Yoshino and Kon, 2000)からトゲナシチビキと同定された。

本種はこれまでYoshino and Kon (2000)以外に国内産の標本は確認されておらず、国内における詳細な

採集地点を示された例もなかった。しかし、漁業者の間ではハチビキ科魚類が方言(薩南・奄美地方「アカボウ」、沖縄地方「チョウチンマチ」等)で一括して取り扱われることが多いことから、近縁他種と混同されてきた可能性が考えられる。近年では琉球列島および伊豆諸島海域において底魚類を対象とした沖釣りによって漁獲され、しばしばWeb上でその釣果が紹介されていることから、現状では稀な種ではないと思われる。

本報告は、本種の伊豆諸島周辺海域からの標本に基づく初めての記録であり、北限の分布記録となる。

引用文献

- Carpenter K. E. 1999. Emmelichthyidae. In Carpenter K. E. and Niem V. H. eds. *The living marine resources of the Western Central Pacific. FAO species identification guide for fishery purposes*, 4: 2838-2839. FAO.
- 波戸岡清峰 2000. ハチビキ科. 中坊徹次編 日本産魚類検索-全種の同定-第二版: 818, 1560. 東海大学出版会.
- Heemstra P. C. and Randall J. E. 1977. A revision of the Emmelichthyidae (Pisces: Perciformes). *Aust. J. Mar. Freshwater Res.*, **28**: 361-396.
- Yoshino T. and Kon T. 2000. First record of an Emmelichthyid fish, *Emmelichthys karnellai*, from the Western North Pacific (Pisces: Perciformes: Emmelichthyidae). *Biogeography*, **2**: 63-65.



第2図 トゲナシチビキ *Emmelichthys karnellai* Heemstra & Randall, 1977. YCM-P44458-1: A, 生鮮標本; B, 固定標本.